

岡山県の農業高校の具体的な取り組み（アクションプラン）その1

実施開始年度：平成19年度 目標達成年度：平成22年度

岡山県農業高校 アクションプラン	井原高等学校 (0866) 62-0203	勝間田高等学校 (0868) 38-3168	久世高等学校 (0867) 42-0625	興陽高等学校 (086) 296-2268	瀬戸南高等学校 (086) 952-0831	高梁城南高等学校 (0866) 48-2252	高松農業高等学校 (086) 287-3711	新見高等学校 (0867) 72-0645	弓削高等学校 (0867) 28-2828
1 地球環境に 優しい農業教 育を推進しま す	<ul style="list-style-type: none"> ◆農業生産において発生する農業廃棄物を出さないよう取り組みます。 ◆施設栽培により出る溶液を再利用できるよう取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆自然環境の保護や改善と安全な食糧供給のための知識と技術を習得します。 ◆水質・植生調査、有機無農薬農業、砂漠緑化活動への参加、安全な食品製造、自動車と環境問題等の実践的学習を通し、環境学習を進めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆環境保全型農業を実現します ◆研究 ①そは栽培肥の試作とその活用 ②地域バイオマス利用の学習 ・企業のパイオマテリアルの事例学習 ・高校生バイオフォーラムの実施栽培 ①牛ふん堆肥の活用による栽培 ・水稲や野菜の減農薬栽培の実現と栽培履歴の情報発信 ②有機無農薬栽培の学習と実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◆バイオマスの有効活用化を柱とした資源循環型農業や動物などを使った有機農業、環境保全型農業を推進します。 ◆伝統的技術や植物の本来持つ力を再確認し、廃棄物の再利用等、実習活動におけるゼロエミッションを推奨・推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆石垣いちご栽培を通して、太陽熱を利用した省エネ栽培と、天敵利用による特別栽培農産物としての認証を実現します。＜野菜＞ ◆レングや米ぬかを利用した環境に優しい米作りを推進します。＜作物＞ ◆牛舎の敷料としてシュレッダー利用を継続します。＜畜産＞ ◆ブドウの予定枝の堆肥化利用をすすめます。＜果樹＞ ◆音電噴霧による農薬散布量の低減を行います。＜草花・果樹＞ 	<ul style="list-style-type: none"> ◆環境保全型農業を旨とし、農薬使用の低減や農場から発生する有機廃材の再利用に努めます。 ◆地域河川・用水路・水田等の水質調査等を実施し、地域の環境改善を総合的に探求します。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆学科が連携して農場の有機廃棄物をゼロを目指します。 ◆畜産を取り巻く環境問題に正面から立ち向かい、地域環境にやさしい畜産の実践に努めます。 ◆地域河川・用水路・水田等の水質測定、流速・流量観測、水生生物調査等の水環境調査を実施し、環境に配慮した土木構造物のあり方や地域の環境改善を総合的に探求します。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域循環型農業の実践をします。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆有機低農薬による農場生産学習を目指します。 ◆風倒木の活用による花壇制作等学校美化を通じた環境創造学習に努めます。 ◆木片チップ等有機廃材を用いた分解性コンクリート製品の試作研究を行います。 ◆ピオトープガーデンの制作と管理・調査を通じた環境保全学習を推進します。
2 基本的な農 業技術能力を 持った人材育 成を推進しま す	<ul style="list-style-type: none"> ◆生産学習をとおして、農業の基礎基本を学習させるとともに、確実な農業技術を習得させるよう努めます。 ◆プロジェクト学習をさせることにより、自主性を高め、積極的な学習態度が育てられるよう取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆実験・実習を多く取り入れます。特にプロジェクト学習、実践問題発見・解決学習に取組み、実践力を身につけます。 ◆インターンシップや社会人講師、企業見学等により、地域で活躍する専門家に学び、生きた技術を習得します。 		<ul style="list-style-type: none"> ◆広大な水田を活かした大規模農業を中心に園芸、動物飼育まで幅広い知識を身につけた人材を育成します。 ◆専門教育を通して地域社会に貢献できる人材育成を推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆農業の中核的科目「課題研究」を有効に活用し、問題解決の能力や自発的・創造的な学習態度および自己教育力を身につけます。 ◆基礎科目の指導強化と「日本農業技術検定」の活用により、農業の基礎知識の充実を図ります。 ◆農業機械を中心とした農業に関する資格取得を推進します。 ◆農業交流や「公開講座」（高等学校開放講座・木もれび講座）の体験を通して、専門知識・技術の深化を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆組織培養専攻（生物工学）、林産専攻（キノコ）、園芸専攻（果樹・野菜）の3つの専門学習を中心に植物バイオテクノロジーや環境保全、栽培学習を積極的に進めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆農家・関連機関との技術交流を深め、農産物の良品生産に努めます。 ◆飼料や飼育環境を改善し、品質の高い畜産品の生産を目指します。 ◆測量の先端技術研修や測量競技大会を通して、質の高い農業土木教育を目指します。 ◆美しい環境を創造するために必要な農業土木設計・施工の実習に取り組みます。 ◆農業に関する基礎的な技術と知識の確かな習得を目指して、「農業技術検定」を活用します。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆基礎基本の徹底反復を行います。農業実習の充実を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆測量の基本的知識技術の実践的な学習を行います。 ◆環境保全と農業生産の向上に必要な農業土木設計・施工に関する実践的学習に取り組みます。 ◆社会人講師を活用して環境及び土木の先端技術を学習します。 ◆水稲及び畑作・花壇苗の栽培管理の基礎を学習します。
3 アグリビジ ネスの広がり に対応した教 育を推進しま す	<ul style="list-style-type: none"> ◆販売ステーション等を通じて、消費者の方々と交流したり、その動向を探ることにより、マーケティング等の学習を行います。 ◆農業生産物の加工品を開発し、オリジナル商品ができるよう努めます。 		<ul style="list-style-type: none"> ◆地域から期待される農産加工品の製造に努めます ◆研究 ①食用廃油の利用に関する研究 ②清酒生産に関する研究 ③安全・安心な農産加工品の生産 ④食品検査の実施と衛生管理の徹底 ◆発信 ①農と食に関する情報発信 ・ダイズやウリ栽培と農産加工に関する発信 ・農産物の栽培から栄養に関する発信 	<ul style="list-style-type: none"> ◆農作物の生産から販売までを体系的に学習します。酒米や有機農産物などオリジナル商品の教育を推進します。 ◆生産環境の創造から地域のランドスケープの設計、地球環境への貢献としての緑の創造などグローバルな視点を育てる教育を推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域特産物の桃栽培をはじめ、収穫・販売までの一貫学習を充実させ、経営感覚を身につけます。＜作物・畜産・果樹・野菜・草花＞ ◆農業大学校等との連携を推進し、相互交流・研究の活性化を図ります。◆家畜推進連・果樹推進会の参加や、販売実習をより活発に行います。＜畜産・果樹＞ 		<ul style="list-style-type: none"> ◆農産物に関する高農オリジナル商品の開発を行い、生産から販売までの一貫学習を通して農業起業家の育成を目指した教育活動を実施します。 ◆新しい加工品の開発を地域連携によって取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆花苗・鉢物・野菜などの生産物を街頭で販売します。 	
4 豊かな人間 性と感性を育 成します	<ul style="list-style-type: none"> ◆農業教育をとおして植物と関わることにより、自らの「生きる力」を育て、生命の尊さを感じる教育を実践します。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆時間を守る、あいさつ、正しい言葉づかい、作業の安全等の社会生活の基本となる習慣やマナーを教科や実習の指導内容の中に位置づけて指導します。 ◆生徒によるボランティア活動を奨励し、社会性を育みます。 		<ul style="list-style-type: none"> ◆動物や植物を教材にした生命教育を行います。 ◆道徳の専門教育を通して、日本の文化や季節感を感じることのできる感性を醸成します。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆本校オリジナルの「地域農業教育（ファーム）」の諸活動を中心に「心の教育」「いのちの教育」「食の教育」を推進し、豊かな人間性を育成します。＜作物・畜産・果樹・野菜・草花＞ ◆地域交流を通して、コミュニケーション能力を高め、地域に貢献しようとする社会性を育成します。 ◆各類型の特色をいかした交流内容の精選と充実を図り、生徒の「自発的、創造的な学習態度及び自己教育力」育成に努めます。 ◆地域の幼稚園・小学校と交流し、地域の特産物の栽培に共に取り組む学習を行います。＜果樹＞ ◆経済動物である鶏の飼育から解体・肉加工までの体験学習を通して、生命を尊ぶ豊かな人間性を育成します。＜畜産＞ 	<ul style="list-style-type: none"> ◆生活や福祉の分野に、園芸活動や交流活動などを活用した対人サービスの学習を進めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆生命を育む学習を通して「豊かな心」と「生きる力」を育てる教育を行います。 ◆動物の誕生や飼育を通して、生命の教育を実践します。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆幼稚園・小学校との交流（米作一環型、芋栽培、花壇え）を行います。 	
5 キャリア教 育を推進しま す	<ul style="list-style-type: none"> ◆就職や進学などの将来設計に向けて、基礎知識や情報収集能力・企画力等が身につけられるよう努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆進路目標を早い時期に持たせ、資格取得、現場実習、インターンシップ等に積極的に取組み、進路実現を目指します。 		<ul style="list-style-type: none"> ◆学校設定科目「インターンシップⅠ・Ⅱ」や外部講師による授業により職業観の育成を図ります。 ◆企業や地域との連携実習・外部講師による講座などを通して、より実際のキャリア教育を推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆校外研修や外部講師授業を積極的に実施し、プロの職業観や生き方を学ばせます。 ◆生徒の興味関心に細かく対応したインターンシップを実施します。 ◆専門教育を生かした進路の実現と地域に貢献できる人材の育成を目指します。 		<ul style="list-style-type: none"> ◆就業体験を単位認定する授業外学習ポイント制度を導入し、農業・関連機関での就業体験を推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆インターンシップを実施します。（年15人程度） 	<ul style="list-style-type: none"> ◆インターンシップ等職場体験への積極的参加を促します。

岡山県の農業高校の具体的な取り組み（アクションプラン）その2

実施開始年度：平成19年度

目標達成年度：平成22年度

岡山県農業高校 アクションプラン	井原高等学校 (0866) 62-0203	勝間田高等学校 (0868) 38-3168	久世高等学校 (0867) 42-0625	興陽高等学校 (086) 296-2268	瀬戸南高等学校 (086) 952-0831	高梁城南高等学校 (0866) 48-2252	高松農業高等学校 (086) 287-3711	新見高等学校 (0867) 72-0645	弓削高等学校 (0867) 28-2828
6 学校農業クラブ活動を通して、指導性、社会性、科学性を育成します	◆農業クラブ活動に積極的に参加させ、農業クラブ活動の3つの目的である指導性・社会性・科学性が達成できるよう取り組みます。	◆学校農業クラブに積極的に取り組み社会全体に広くPRします。		◆農業クラブ各種活動に積極的に取り組み、実践力を身につけます。また、コンテストなどに積極的に参加させクラブ活動をより推進します。	◆農業クラブ郷土芸能部や専門部による地域イベントへの協力を積極的に行う中で、社会性を向上させます。 ◆科目「課題研究」の充実を図り、専門性を生かしたプロジェクト活動を継続的にを行い、科学性を身につかせます。 ◆農業クラブ本部役員や同専門部のリーダーとしての活動を通して、指導性を向上させます。	◆プロジェクト学習を積極的に進め、学習意欲の向上と問題解決能力の育成を図り、各種発表・競技会や資格取得などに取り組みます。	◆農業クラブ活動に積極的に取り組み社会全体に広くPRします。	◆農業クラブ各種発表・競技会の参加と校内運営の活性化を図ります。	◆校内の学校農業クラブ活動を活かしに行い、測量競技を中心に各種発表・競技会に積極的に取り組みます。
7 食の安全・安心教育を徹底します	◆農業生産物を育成するにあたって、できるだけ使用農薬を抑え、残留農薬量をゼロに近づけるよう努めます。 ◆食の安全・安心について専門家をお招きし、消費者の立場に立った学習に取り組みます。	◆環境保全型農業を学ばせ、地域に安全な食品を提供するとともに食の安全について地域の意識を高める活動を進めます。	◆地域社会に貢献できる能力を養います 研究 ①生産から販売についての企業活動の実践研究 ②高校生「エコ広場」UD整備事業に関する研究活動 ③ふれあい市の実施 ④地域での農業支援活動の実施 ・幼・小・中学校へ向けての農業体験支援活動 ・幼・小・中学校へ向けての園芸支援活動 ・公共施設に向けての草花ボランティアの支援活動 ⑤ボランティア活動への参加 ⑥森保全ボランティアへの参加	◆環境保全型農業や生産物の流通・販売までの学習を通して食の安全教育を推進します。	◆食品製造を通して安全・衛生教育をすすめます。 ◆水稲栽培データベースの活用による栽培管理の徹底を図ります。 ◆天敵利用や減農薬農業を推進します。 ◆生活デザイン科との連携強化による「食育」を推進します。	◆平和で健康な生活を営むため、安全で安心な食料を生産する技術を身につけます。	◆環境保全型農業を基本に、「特別栽培農産物」および「有機農産物」の栽培を实践し、食の安全・安心を追求します。 ◆加工品の大腸菌・黄色ブドウ球菌・サルモネラ菌など食中毒細菌の自主検査を行い、地域に安全な加工品を提供するとともに食の安全・安心教育を推進します。	◆できるだけ食品添加物を使用しない肉加工品の製造を行います。 ◆適期防除による減農薬栽培を実践します。	
8 開かれた学校を目指します	◆地域の方々を広く学校へ招聘し、本校が実践している農業教育を知っていただき、相互協力できる形が築けるよう努めます。 ◆高大連携や地域企業との連携など、民官学交流の絆をより強くするよう取り組みます。	◆保育園、幼・小・中学校、高校、農業大学校、大学、行政機関、福祉施設、地域住民等と積極的に交流し、生徒の「生きる力」を育成するとともに、地域に生涯学習の場を提供します。		◆地域開放講座の実施、学校関係や公民館等との連携活動を強化します。 ◆地域の農業機械センターとして資格取得を推進したり、農業機械の展示を通して干拓地の歴史を紹介したりします。 ◆各科の専門性を活かした地域のユニバーサルデザインセンターを目指します。	◆子供対象「地域農業教育ファーム」の活動を積極的にいきます。（保育園や小学校との連携の充実、本校教育ファームオリジナルベース「動物ふれあい広場」の充実） ◆シクラメン祭りや泥んこパレーの開催を通して生徒の活動を紹介します。 ◆生徒作成ホームページ「農場ニュース」による情報発信を積極的にいきます。	◆開放講座を実施し、農業体験の場を地域に提供します。	◆開放講座を実施し、農業体験の場を地域に提供します。 ◆園芸植物を用いて園芸福祉活動を実践し、地域のセンターの役割を担います。 ◆ホームページで学校の教育活動を情報発信します。	◆地域との交流行事を充実させます。 ◆無人販売所の設置による農場生産物の販売に取り組みます。 ◆ボランティア活動による通学路を中心とした清掃活動に取り組みます。 ◆養護学校との交流学習を進めます。	◆河川の水質調査を通じた地元小学校との交流活動を推進します。 ◆無人販売所の設置による農場生産物の販売に取り組みます。 ◆ボランティア活動による通学路を中心とした清掃活動に取り組みます。 ◆養護学校との交流学習を進めます。
9 農業教育活動の普及や支援を積極的に行ないます	◆近隣の小・中学校との交流活動を実践し、学習者の農業に対する理解を深めます。 ◆近隣の高校と異学科間交流をすることにより、農業のおもしろさをPRします。			◆地域の保育園、小・中学校、養護学校などの農業学習・動物とのふれあいに協力し、支援を積極的に行います。 ◆体験学習の場として、自然学習の啓発・推進に協力します。	◆地元小学校との農業交流の充実を図ります。 ◆大人対象「地域農業教育ファーム」による講座を積極的に開催し、地域に本校の持つ知識・技術を提供するとともに、生徒の学習活動の成果を情報発信します。（年8回の「高等学校開放講座」の内容充実。「シクラメン夏越し法」や「原種シクラメン組教会」など、本校教育ファームオリジナルプログラム「木もれび講座」の開催）	◆福祉の学習と関連させ、病院や福祉施設の花壇づくりや幼稚園、小学校を対象とした草花や野菜の体験的・継続的な栽培学習を行います。	◆幼・小・中学校を対象に収穫体験やふれあい動物園などを実施し、農業に対する理解を深めます。 ◆生活環境に潤いを与える園芸装飾活動を地域で展開します。	◆地域の研究発表会等への参加を積極的に行います。	
10 農業教員の資質の向上をはかり、授業力を高めます	◆地域の先進地農家や専門機関の方を招聘し、農業技術の研鑽を図ります。 ◆研修に積極的に参加し、自らの資質向上に努めます。	◆教員が積極的に研修し、専門的指導力の充実に努めます。また、各自がテーマを持って研究し、地域の産官学との連携を深めていきます。そして、地域の核となる農業教育センターをめざします。		◆専門の研修や地域農家、専門機関、関連企業の協力を得ながら、実践力を強化し資質の向上を図ります。	◆教員間の日常的な協力体制を強化する中で、相互に持つ知識・技術の共有化を図ります。 ◆授業・実験実習におけるICTの活用を積極的にを行い、すべての教員がICTを活用した教科指導ができるようにします。 ◆農家や大学等との連携・情報交換を積極的にいきます。（地域の「ドゥ先進農家、ブドウ育種家、イチゴ先進農家」との情報交換や連携）	◆農家・関連機関などと連携を図り、研究や研修を実施し、教員の授業力、専門的な技術の向上に努めます。	◆企業、地域農家、専門機関などで自主研修「テクノアップ高農」を実施し、教員の指導力の向上を図ります。	◆各種研究発表会への参加により技術向上に努めます。	◆教員相互の授業参観等開かれた授業によって研修を深め、授業力の向上を目指します。 ◆教育指導並びに専門研修に積極的に参加し、教員の資質を高めます。